＜原　著＞

特別支援学校用教科書『くらしに役立つ　社会』の分析（Ⅰ）：地理的内容―学習困難の研究（２）

若原　崇史*・宛　　彪**・横山　千夏*・渡邉　巧**
能見　一修*・岡田　了祐**・池野　範男***

本研究は，本来の教育の理念を回復するために，特別支援教育の使命と理念である，“誰もがわかる，誰もが学ぶことができる”ことに学び，教育の新たな創造をめざすための予備的研究である。本研究では，つまずきは誰もが持っている教育の状態であり，特別に支援が必要な子どもだけではない。すべての子どもがつまずく可能性を持っている，と考え，学校の授業や活動にいてすべての子どもたちが支障なく学ぶことができる状態を作り出すことが必要だろう，と仮定し，研究を進めている。

本稿は，第２稿として，研究の目的と仮説を確認したのち，地理的内容に焦点を当て，“特別支援学校”用社会教科書（『くらしに役立つ　社会』東洋館出版社，2007，以下，本教科書と略す）を“通常”学校用社会科地理教科書と比較し，研究仮説の妥当性を検討する。

検討の結果明らかにした点は，１つ目は，生徒にとってイメージしやすい生活との連関を重視することで「容易性」を高めているといえるだろう。２つ目は，生徒が実際に使える，場合によっては使ったことがある地図を取り上げることで「行為随伴性」を高めているといえるだろう。３つ目は，生徒が旅行したり生活したり際に使える知識を学習することで「行為随伴性」を高めているということである。

キーワード：特別支援学校用教科書，社会科教育，地理，学習困難

Ⅰ．問題の所在と本稿の目的

本研究のねらいは，特別支援教育の使命と理念を再考することによって，“誰もがわかる，誰もが学ぶことができる”という近代教育が掲げてきた，本来の教育の理念を取り戻すことである。このねらいにもとづき，特別支援教育と教科教育の間に作られていた溝を埋めること，また，相互に本来の教育の理念の実現を目指すことで，学校教育総体を新たに作り直す基盤づくりを行うことを意図している。

本稿では，Ⅱで『くらしに役立つ　社会』（大南，2007）と『新しい社会』の３分野の全体構成の比較を行う。本稿以降，地理的・歴史的・公民的内容それぞれに焦点を当て，『新しい社会　地理』（五味ほか，2013），『新しい社会　歴史』（五味ほか，2013），『新しい社会　公民』（五味ほか，2013）を比較対象とし，単元構成，小単元構成を比較する。違いを指摘するとともに，そこから導き出される学習困難の構造，学習困難に対する克服策を明らかにしていく。その際，前稿（池野ほか，2014）にて提出した，以下の社会科学習の困難に関する本研究の仮説を検討することにしたい。

(1) 容易性
社会に関する情報は，その情報をある形やイメージ，ことばに統合したり構成したりすることが，容易であると，情報処理はうまくできる。

(2) 決断性
社会に関する情報は多様に与えられるが，ひとは，それを特定のものに制限し特定の見えに決定することで，確実化を図る。

(3) 行為随伴性
社会に関する情報に関して，ひとは，情報操作するとき，動作，行動を伴い行っている。

(4) 独立性
社会に関する情報は，それぞれ，独立した動作，行

* 広島大学大学院教育学研究科博士課程前期科学文化教育専攻社会認識教育学専修
** 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期文化教育開発専攻社会認識教育学専修
*** 広島大学大学院教育学研究科社会認識教育学講座

動によって，多様なイメージや概念を作り出すことができる。

Ⅱ．全体構成の比較

1．ねらいの比較

本教科書の序章には，次のような文章が示されている。

> 私たちは，社会の中で生きています。
> 学校を卒業して巣立っていく社会は，どのようなところなのでしょう。高等部の「社会」では，そのことを勉強していきます。

この文章には，私たちが社会の中で生きていることを意識させ，卒業後に巣立っていく社会がどのようなところであるのかを学習することがねらいであると示されている。

では，『新しい社会』はどのようなねらいがあるのだろうか。それぞれの教科書のうち，学習のねらいを示していると読み取れる箇所を抜粋したものが Table 1 である。

『新しい社会　地理』は，世界や日本の様々な地域の人々のくらしを学習することを通して世界や日本の未来について考えること。『新しい社会　歴史』は，歴史の大きな流れを自分の言葉で多くの人に伝えていくこと。『新しい社会　公民』は，社会に関わるひと，もの，ことの正しい知識と適切な判断力を身につけることを学習のねらいとして教科書が構成されている。つまり，『新しい社会』の３分冊は，世界や日本の諸地域のくらし，歴史の大きな流れ，社会にかかわるひと，もの，ことの理解という，それぞれの教科書が独立したねらいをもっており，その中心を地理，歴史，社会それぞれの学問（客観）的知識の理解に置いていると考えられる。以上のように，本教科書と通常学校用社会科教科書『新しい社会』の３分冊の学習のねらいは異なっている。では，なぜこのような違いがあるのだろうか。それは，それぞれが依拠する学習指導要領の目標から読み取ることができるだろう。特別支援学校の学習指導要領には「地理」「歴史」「公民」といった言葉は目標内では述べられていない。「社会の様子，働きや移り変わり」を具体化したものが本教科書の学習内容である。地理的・歴史的・公民的内容を，総合してあると読み取れる。それらの理解を深めるだけで

Table 1　『新しい社会』３分野の学習の導入文

『新しい社会　地理』　第１編第１章の導入文
美しい地球を保ち，世界じゅうの人々が平和にくらしていくために，わたしたち一人ひとりはどうしたらよいでしょうか。これから，世界や日本のさまざまな地域に人々が，それぞれの環境のもとでどのようにくらしているかを学習し，世界や日本の未来について考えていきましょう。
『新しい社会　歴史』　第１章 1 歴史学習のはじめに
さあ，これからわたしたちは，歴史のそれぞれの時代の人々と会話をしにいきます。そして，それぞれの時代がどんな時代だったのか，歴史の大きな流れを，今度はわたしたちが，自分の言葉で多くの人に話していきましょう。
『新しい社会　公民』　「公民を学ぶにあたって」「公民」とは・・・
「公民」の学習をとおして，さまざまな「ひと」「もの」「こと」とかかわりながら，正しい知識と適切な判断力を身につけていきましょう。それが，社会に参画することができる人間へ成長する第一歩となります。

Table 2　特別支援学校小学部・中学部と中学校の学習指導要領の目標対比表

特別支援学校小学校・中学部学習指導要領 社会	中学校学習指導要領　社会
社会の様子，働きや移り変わりについての関心と理解を深め，社会生活に必要な基礎的な能力と態度を育てる。	広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め，公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

はなく，「社会生活に必要な」能力，態度の育成を掲げている。一方，通常学校の中学校学習指導要領には，「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め，公民としての基礎的教養を培い」とあり，この文章が３分野の学習のねらいを端的に示している。この文章から，学習のねらいは「理解」や「教養」であると読み取れる。つまり，特別支援学校と通常の中学校では，「社会生活者を育てる社会科」と「社会を理解する社会科」という社会科観の違いがあると考えられる。

２．全体構成の比較

次に本教科書と『新しい社会』の全体構成を比較したい。本教科書の全体構成を以下の Table 3に示す。

次に通常学校用社会科教科書である東京書籍『新しい社会』はどのような全体構成となっているのか。『新しい社会』３分冊の目次を Table 4に示している。

本教科書と『新しい社会』とを比較してすぐ気づくことは，本教科書が，地理，歴史，公民に分節した構成になっておらず，全体に社会生活を理解し，そこで生きていける能力を身に付けるよう，総合的な構成になっていることである。

本教科書は，１冊，115ページで，序章を含め，５つの章からなっている。序章「現代社会と私たち」では発達期について，また現代社会の諸側面について学習する。第１章「私たちのくらしと社会」では，国や地方公共団体のきまり（憲法，法律など）やしくみ（三権分立，税金など）を学習する。第２章「私たちのくらしと公共施設」では，私たちの生活を支えるしくみの１つとして公共施設，支援機関を取り上げ，それら

Table 3　本教科書の全体構成

序章　現代社会と私たち
第１章　私たちのくらしと社会 1. 国や社会のきまり 2. 国や社会のしくみ 3. 私たちのくらしを支える社会のしくみ
第２章　私たちのくらしと公共施設 1. 公共の交通機関 2. 金融機関（銀行）や郵便局の利用 3. 役所（市・区役所，町・村役場）でできる手続き 4. 警察・消防の働き 5. 病院や保健所の役割 6. 新聞・マスメディアの活用 7. 専門店，デパート，劇場，博物館などの利用 8. 職業や生活の相談と支援
第３章　私たちのくらしと経済 1. 生産から消費への流れ～流通のしくみ～ 2. いろいろな仕事 3. 経済活動を支える社会のしくみ 4. 私たちの消費生活
第４章　日本の地理と歴史 1. 地図の見方 2. 歴史の流れと年代の表し方 3. 日本各地の地理と歴史 4. 世界の中の日本

Table 4　『新しい社会』の３分野の全体構成

『新しい社会　地理』	『新しい社会　歴史』
第１編　世界のさまざまな地域	第１章　歴史のとらえ方
第１章　世界のすがた	第２章　古代までの日本
第２章　世界各地の人々の生活と環境	第３章　中世の日本
第３章　世界の諸地域	第４章　近世の日本
第４章　世界のさまざまな地域の調査	第５章　開国と近代日本の歩み
第２編　日本のさまざまな地域	第６章　二度の世界大戦と日本
第１章　日本のすがた	第７章　現代の日本と世界
第２章　世界から見た日本のすがた	
第３章　日本の諸地域	
第４章　身近な地域の調査	
『新しい社会　公民』	
第１章　わたしたちの生活と現代社会	
第２章　人間の尊重と日本国憲法	
第３章　現代の民主政治と社会	
第４章　わたしたちのくらしと経済	
第５章　地球社会とわたしたち	
終章　　よりよい社会をめざして	

の働きと利用方法を学習する。第３章「私たちのくらしと経済」では，生産・消費を含む経済のしくみを学習する。ここまでの内容は「私たち」「くらし」の視点から選択された公民的内容である。第４章「日本の地理と歴史」は，地図の見方，歴史の流れ，年代の表し方という地理的・歴史的技能を学習したのち，日本各地の地理と歴史，世界の中の日本を学習する。第４章は，地理的・歴史的内容を中心としているが，公民的内容も含まれている。

一方，『新しい社会』では，それぞれの分野がそれぞれ異なる教科書，つまり，独立した学習内容となっている。『新しい社会　地理』は，世界から日本の様々な地域を学習する。『新しい社会　歴史』は，歴史の捉え方を学習したのち，古代から現代へと年代順に学習が展開している。『新しい社会　公民』は，現代社会を概観したのち，憲法や政治，経済，国際社会について学習する。『新しい社会　地理』は263ページ，『新しい社会　歴史』は263ページ，『新しい社会　公民』は215ページ構成である。３冊全体の学習の流れは，世界の地域から日本の地域，古代から現代の歴史の学習の後，日本の「現代社会」についての学習という配列になっている。以上のことから，『新しい社会』はそれぞれの教科書が独立したねらいをもっており，「地理・歴史→公民」の順に学習が進むにつれ，世界や古代などから日本の現代社会へと近づいていくように構成されている。

本教科書は通常学校用教科書の内容をそのまま組み換えたものではなく，社会生活の理解とそこで生きていくための利用，活用方法という観点から構成した内容となっている。

以上のことから，本教科書の配列は通常学校用社会科学習指導要領や教科書に準じて言えば，「公民→地理・歴史・公民」の順になっており，通常学校の内容を別の視点からから構成しなおし，３分野の中でも「私たちのくらし」と関連した公民的内容を重点的に取り上げる構成となっている。

以上の内容から，全体構成に関して両者の相違を３点指摘できるだろう。

第１に，１冊本であるのか，３分冊であるのかという点である。『新しい社会』の３分野はそれぞれ別の教科書となっており，分野のつながりを意識した内容も含まれるものの，それぞれの分野は別々のねらいのもと学習される構成である。それに対して，本教科書は地理，歴史，公民的内容を分離せず，「社会生活」の観点から総合的に学習させる構成である。

第２に，学習内容の配列順序・選択の違いである。『新しい社会』は学習指導要領に「地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開する」とあるように，「地理・歴史→公民」という順序で学習される。それに対し，本教科書は先に述べたように，公民的内容を中心とした章と地理的・歴史的内容が混在する章が設定されている。つまり，「公民→地理・歴史・公民」の順である。また，全体のページ数を比較すると，『新しい社会』の３分冊全体では741ページとなるのに対し，本教科書は115ページであり，単純に配列を変更したものではなく，内容選択を行い，編成替えしていることがわかる。つまり，本教科書と通常学校用教科書は，学習内容の配列順序，選択原理が異なっている。

第３は，学習の導入，基礎とされる内容の違いである。通常学校用教科書では地理的・歴史的内容が基礎的な内容であると考えられている。本教科書は，序章「現代社会と私たち」が社会学習全体の導入となっている。序章では，生徒が現在の学齢期から青年期へと移っていき，その時期においてどのような変化があるのか，これから巣立っていく社会は，どのような問題があるのかを学習する。序章は，学校社会という狭い環境の中で生活している生徒の視点を学齢期から青年期へ，学校生活から社会生活へと転換していくためのはたらきをしているといえるだろう。つまり，通常学校用教科書は社会科全体でみると地理や歴史が導入とされているのに対し，本教科書は生徒の視点を転換させ，学習していく（生きていく）社会の概観を学習する公民的な内容の導入となっている。

３．学習困難の想定とその手立て

ここまで，本教科書と通常学校用教科書の学習のねらい，全体構成を比較してきた。両者の間の相違から，本教科書の想定している学習困難をみることができる。

本教科書は３つの分野をそれぞれ独立して学習することはなく，「社会生活」という観点から総合的に学習するという構成になっていた。そこには，それぞれの分野を独立して学問的知識を理解していくことを学習困難として捉えている可能性を指摘できるだろう。その克服のため，生徒が卒業後に出て行く社会，そこでの生活に必要となる知識を学習内容と選択しているといえる。

また，本教科書と通常学校用教科書では学習内容の配列順序が異なっていた。これは，地理や歴史という生徒にとって距離を感じうる内容を基礎として学習を

進めることを学習困難と捉えている可能性を指摘できるだろう。その克服のため,生徒たちの視点を学齢期,学校生活から青年期，社会生活へと広げた後，生徒たちにとってより身近な社会に関連する公民的内容を先に学習する配列となっているといえる。

全体構成の比較の結果，社会科学習に関して，地理，歴史，公民として分節化するよりも，社会生活という日常生活にひきつけ，社会を理解し，そこで必要とされる能力・技能，判断を身に付けることが，必要性が高く，また学習もしやすいと想定されている。別言すれば，特別支援を必要とする生徒にとって，地理，歴史，公民（社会）と別々に学習するよりも，一人一人の社会生活に関連付けて学習する方が，社会の学習として有効であろうと想定されているということである。

分野を区切って社会を学習することは，客観的，学問的に高度で，有効性が高いと一般的に考えられている。しかし，一人一人の学習の確かさ，保証という観点からみると,必ずしもそうとはいえないというのが,本章の考察の結果である。以下では，社会科学習における困難に関して，通常学校の学習指導要領，教科書との比較を行うために，本稿以下で，地理的内容を，次稿では，歴史的内容を，次々稿では，公民的内容を比較し，研究仮説に関するそれぞれの考察を行うとともに，次々稿末で，全体的な比較考察をおこない，本研究のまとめとしたい。

Ⅲ．地理的内容に焦点を当てた単元構成の比較

１．通常学校用社会科教科書との比較

次に単元構成レベルで通常学校用社会科教科書との比較を行いたい。本稿は，本教科書のうち，地理的内容を分析対象とする。本教科書のうち，地理的内容を含むのは第４章「日本の地理と歴史」である。Table 5は，本教科書の第４章と『新しい社会　地理』の構成を比較したものである。第４章の中でも地理的内容に該当する箇所は網掛けで示している。また，本教科書に関連している『新しい社会　地理』の該当箇所も網掛けで示している。

本教科書で学習される内容は，地図の見方の学習と日本の諸地域の学習である。どちらの内容も『新しい社会　地理』においても学習される内容である。しかし,『新しい社会　地理』では地図の見方などの地理的なスキルに関してはコラムを設けて学習されることとなっている。

本教科書と『新しい社会　地理』との大きな違いは，次の４点である。第一は，世界の諸地域に関する学習がないこと，第二は，世界の中の日本のすがたの学習もなされないこと，第三は，世界の中の日本の学習が，歴史と結びつけてか，あるいは，世界，外国との交流と関連づけてなされること，である。さらには，地域の調査方法も独立して示されないこと，である。つまり，地図や日本の諸地域以外の世界の諸地域や調査方法などの内容は本教科書では，独立して学習されず，第４章において歴史的内容と結びつけ学習される。また，後述するが「３．日本の地理と歴史」では地方を説明する要素の１つとしてその地方の歴史が学習される。つまるところ，本教科書の地理的内容は地理として独立しておらず，地域の歴史を地理的内容の一部として学習される構成となっているのである。

では,次に第４章中の地理的内容「１．地図の見方」,「３．日本の地理と歴史」について内部構成についてみていくことにしよう。

(1)「１．地図の見方」

「１．地図の見方」は,「(1) 地図をみるときのきまり」と「(2) 地図の種類」という２つの見開きで構成されている。「(1) 地図をみるときのきまり」では,「方位」「縮尺」「等高線」「地図記号」の４つが説明されている。これらは小学校中学年の学習内容であり，地図学習の基本的な内容である。「(2) 地図の種類」では,「地形図」「道路地図」「住宅地図」「鳥瞰図」の４つが説明されている。ここで取り上げられる地図は，さまざまな地図の基本となる地形図や実際に生徒が使う，または目にする可能性が高い地図であるといえる。これら以外にも地図は数多く存在するが，網羅的に取り上げるのではなく，道路地図，住宅地図という，生活に有用な地図を取り上げ,その利用,活用をねらっている。「１．地図の見方」は５ページで構成され，方位記号や等高線の図，道路地図，住宅地図の写真などが豊富に用いられている。

『新しい社会　地理』において，地図に関する内容を扱っているのは教科書内に点在する「地理スキル・アップ」のうち，網掛けで示した箇所である。これらのコラムをまとめると８ページ程度となる。そこでは，学習の視点として，生活での利用・活用も含まれているが，地図そのものの読解を基本にし，地図を見るときのきまりとともに，地図を用いた地域の学習における学習成果のまとめ方を学習させている。また,『新しい社会　地理』で取り上げられる地図は本教科書で取り上げられていないドットマップや階級区分図など多数取り上げ，地図全般の読図に対応するものとなっ

Table 5　地図の学習・日本の諸地域の学習の単元構成対比表

くらしに役立つ　社会	新しい社会　地理
第４章　日本の地理と歴史 1. 地図の見方 (1)地図を見るときのきまり (2)地図の種類 2. 歴史の流れと年代の表し方 (1)年代の表し方 (2)時代の表し方 3. 日本各地の地理・歴史 九州地方 中国地方 四国地方 近畿地方 中部地方 関東地方 東北地方 北海道地方 4. 世界の中の日本 (1)歴史の中のかかわり (2)国際社会のしくみ (3)国際社会のきまり (4)物の交流 (5)外国との交流	第１編　世界のさまざまな地域 第１章　世界のすがた 第２章　世界各地の人々の生活と環境 第３章　世界の諸地域 第１節　アジア州―急速に進む成長と変化― 第２節　ヨーロッパ州―国どうしの統合による変化― 第３節　アフリカ州―おもな生産品にたよる生活からの変化― 第４節　北アメリカ州―さかんな農業や工業の特色― 第５節　南アメリカ州―開発の進展と環境問題― 第６節　オセアニア州―強まるアジアとの結びつき― 第４章　世界のさまざまな地域の調査 第２編　日本のさまざまな地域 第１章　日本のすがた 第２章　世界から見た日本のすがた 第１節　世界から見た日本の自然環境 第２節　世界から見た日本の人口 第３節　世界から見た日本の資源・エネルギーと産業 第４節　世界と日本の結びつき 第３章　日本の諸地域 第１節　九州地方―環境問題・環境保全に向き合う人々のくらし― 第２節　中国・四国地方―都市と農村の変化と人々のくらし― 第３節　近畿地方―歴史の中で形づくられてきた人々のくらし― 第４節　中部地方―活発な産業を支える人々のくらし― 第５節　関東地方―さまざまな地域と結びつく人々のくらし― 第６節　東北地方―伝統的な生活や文化を守り育てる人々のくらし― 第７節　北海道地方―雄大な生活や文化を守り育てる人々のくらし― 第８節　日本をながめて 第４章　身近な地域の調査
	地理スキル・アップ 地球儀で距離と方位を調べよう／地図帳を使って国や都市を探そう／世界の略地図をえがこう／気温と降水量のグラフの読み取り方／写真の読み取り方／主題図の読み取り方／グラフの読み取り方／インターネットの活用方法／統計資料を活用したグラフのつくり方／主題図のつくり方／時差を調べよう／日本の略地図をえがこう／地形図の読み取り方／人口ピラミッドのつくり方／景観の読み取り方／野外調査のしかた／さまざまな地図のまとめ方／GIS の活用方法

ている。それに対して，本教科書は，基礎的な地図と生活に必要な地図とを取り上げ，それらの読解を促している。

(2)「３．日本の地理と歴史」

「３．日本の地理と歴史」では，九州地方から北海道地方まで８つの地域区分の名前がついた見開きで構成される。各地方の見開きの中には,「位置と気候」「人口」「歴史」「産業」「〇〇地方の各県」という見出しがある。「位置と気候」などの地理的要素だけではなく，「歴史」が取り上げられ，それらによって地方の紹介がなされている。また，節の導入文に「自分の住んでいる県や，行ってみたい地方について調べてみましょう」とあるように，地方全てを網羅するというより，自分の住んでいる県，行ってみたい地方を選択し，その地方を理解することに重点化した学習が企図されていると読み取れる。また，詳しい内容については後述するが，地方を地理学的な特徴から理解するというより，それぞれの特産物や有名な観光地を挙げるなど，住む，旅行する，生活するという観点からその地方の地理を理解していく内容となっている。

『新しい社会　地理』において，日本の諸地域に関する内容を取り扱っているのは第２編第３章「日本の

諸地域」である。ここでは，九州地方から順に北海道地方まで地域区分の学習がなされる。中国地方と四国地方はまとめられているため，日本を７つの地方に分けている。それぞれの地域区分の学習には，例えば九州地方であれば「環境問題・環境保全に向き合う人々のくらし」という視点が与えられ，それぞれの地域的特色を追究する学習を行う。そして，章のまとめには８節「日本をながめて」があり，地域的特色をまとめ，日本全体の地域的特色を考えさせる学習となっている。それぞれの地方，日本を地理学的な観点から理解していくという構成であるといえる。

２．相違の指摘

以上の内容から，地理的内容の単元構成に関して両者の相違を３点，指摘できるだろう。

第一は，取り上げられる内容の違いである。先に述べたように本教科書は通常学校用教科書を圧縮して構成されたものではないため，『新しい社会　地理』で取り上げられることがすべて学習されるわけではない。『新しい社会　地理』のうち表中網掛けで示していない箇所は本教科書では取り上げられない。例えば，世界のさまざまな地域，日本のすがた，世界から見た日本のすがた，世界・身近な地域の調査などである。また，本教科書で取り上げられる内容も『新しい社会地理』に取り上げられるとは限らない。例えば，「道路地図」「住宅地図」や各地方の学習内での歴史に関する内容などがそれにあたる。また，本教科書で「１．地図の見方」で地図について学習するまでは教科書内に地図は出てこないが，『新しい社会　地理』では，地図の学習の前に地図は何度も登場している。このように，両者に取り上げられる内容であっても，その位置づけが異なっている。

このような違いは何によるものなのか。それは，それぞれの教科書における「地理」観の違いによるものであると考えられる。学習のねらいでも見てきたように，本教科書は「社会生活者」を育てる社会科を具体化していると思われる。つまり，ここで学習される地理は「社会生活者」にとって使えるべき技能，理解しておくべき内容である。それに対し，『新しい社会　地理』は，地理学の学問的な知識の理解が目的であると思われる。つまり，ここで学習される地理は「社会を理解する」ために必要な地理学的な知識，技能である。このように，それぞれがたつ「地理」観の違いから，より生活にとって有用性の高いものを取り上げたり，学問的に重要である地図を取り上げたりと学習内容の選択が異なっていると考えられる。

第二は，取り上げられる地図の違いである。本教科書においては，さまざまな地図の基本となる地形図や生活で使える道路地図，住宅地図，鳥瞰図が取り上げられる。それに対し，『新しい社会』で取り上げられるのは，分布図やドットマップなどである。つまり，生活にとって有用性の高い地図を取り上げる本教科書と，情報を整理し，まとめるための地図を取り上げる『新しい社会　地理』という違いがある。

第三は，地方の描き方，特徴，地域的特色の学び方の違いである。本教科書においては，生徒は自然や産業，歴史，各県の情報を総合することで地方の特色を学んでいく展開となっている。また，そこで描かれる地域的特色は序章「(3) これからの日本」で取り上げられる現代社会のさまざまな面と重なる部分も多い。例えば，九州地方の産業をみるとIT産業の一面が強調されているが，これは「(3) これからの日本」の情報化社会，労働環境の変化などで述べられている内容に重なっていると読みとれる。つまり，地方の特色を学んでいくとともに，そこに見られる現代社会の一面を見出す学習の構成となっているといえる。それに対し，『新しい社会　地理』は地域的特色を追究する視点が設定されていることからわかるように，生徒が追究すべき特色は方向付けられている。学習内容にはその特色を描くために必要な県，都市が選択されている。そのように選択された内容を事例に，地域的特色を追究していく学習を通して，教科書が習得させたい地理的事象を理解していく。つまり，『新しい社会地理』は生徒が習得すべき地域的特色はすでに選択されており，それらの理解を通して日本全体の特色を学習するのに対し，本教科書は習得すべき特色があらかじめあるのではなく，地域，各県の様子を知ることで特色がみえてくるような学習となっている。

このような違いは何によるものなのだろうか。それは，先ほど同様に，それぞれの教科書の「地理」観，さらには社会科観の違いによると考えられる。本教科書の場合，「社会生活者」にとって必要で有用な内容が選択されていた。このような考え方であるため，本教科書では実生活で活用できる地図が選択される。また，地域的特色を理解するように視点が提示されるわけでもなく，それぞれの情報から生徒がある程度，地域的特色がみえてくる程度の学習となる。それに対し，『新しい社会』は「社会の理解」が主目的であり，理解すべき地理学的知識・技能が地理とされる。このような考え方であるため，理解すべき地理学的知識とし

て情報をまとめるための地図や各地方，日本の特色が挙げられると考えられる。

３．学習困難の想定とその手立て

ここまで，本教科書と通常学校用教科書の地理的内容と単元構成を比較してきた。両者の間の相違から，本教科書の想定している学習困難をみることができる。

日本の諸地域の学習において九州地方から北海道地方への配列順序やそれらの各地方の学習を構成する要素の配列順序もほぼ一定化されていることは，通常学校用教科書と同様ではある。しかし，本教科書は生活に使える地図，住む，旅行する際に使える知識といった生活との連関を強調し，通常学校用社会科教科書はそれぞれの学問との連関を強調している。つまり，本教科書は通常学校用社会科教科書のように，学問的な要求から地理学的な知識を習得させていくことを困難につながると捉えていると考えられよう。その克服のため，社会生活の要求から生活に必要となる知識・技能の学習，生徒たちが生活で実際に使えることを意識した学習で単元が構成されていると考えられる。

Ⅳ．地理的内容に焦点を当てた小単元構成の比較

１．通常学校用社会科教科書との比較

次に小単元構成レベルで通常学校用社会科教科書との比較を行いたい。

(1)「１．地図の見方　(2) 地図の種類」

「１．地図の見方」については，「(2) 地図の種類」を取り上げ，『新しい社会　地理』との比較を行う。Table 6は「(2) 地図の種類」で取り上げられる地図の種類と『新しい社会　地理』で取り上げられる地図の対比表である。

本教科書で取り上げられるのは，さまざまな地図の基本となっている地形図，旅行するときの道順調べなどに使用できる道路地図，住宅地の案内板としても使われる住宅地図を取り上げている。さらに，遊園地の案内板やカーナビゲーションシステムの地図に使われることもある鳥瞰図の紹介もされる。これらは，数多くある地図の中から生徒の生活にとって有用性の高いものが選択されていると考えられる。

『新しい社会　地理』でも，さまざまな地図について学習する。しかし，その学習の前から地図を用いた説明もされており，ある程度，生徒は地図を理解しているものとして学習が進められている。また，ドットマップ，分布図など学習成果をわかりやすくまとめることができる地図が選択されているといえる。そのほか，階級区分図，流線図が取り上げられており，多様な地図の読み取りができ，できるだけどのような地図にも対応できるように準備しているといえるだろう。

Table 6　取り上げられる地図の種類の対比図

くらしに役立つ　社会	新しい社会　地理
第４章　(2)地図の種類	地理スキル・アップ
地形図／道路地図／住宅地図／鳥瞰図	分布図／地形図／ドットマップ／階級区分図／図形表現図／流線図

(2)「３．日本各地の地理・歴史　九州地方」

「３．日本各地の地理・歴史」においては，九州地方に関する箇所を取り上げ，『新しい社会　地理』との比較を行う。Table 7は九州地方に関する小単元の構成を対比する表である。

本教科書の九州地方の学習は，大きくみると，地方全体について書かれている部分と九州地方の各県について書かれている部分の２つで構成されている。九州地方の，位置と気候や人口，産業などの地理的な内容だけではなく，歴史という歴史的内容を含みこんでいるのが特徴的なことである。全体は４ページ構成であり，各県についての内容が若干多い。Table 8は，九州地方の見開きに含まれる見出しと地理的内容をまとめたものである。

本教科書の九州地方全体についての見出しは，それぞれの見出しに沿って九州地方を簡単に説明している。地方全体についてだけではなく，それぞれの県に関する内容について述べられることもある。「位置と気候」では，我が国における日本の位置や日本海側，

Table 7　九州地方の学習の構成対比表

くらしに役立つ　社会	新しい社会　地理
九州地方 位置と気候 人口 歴史 産業 (1. 工業，2. 農業) 九州地方の各県	１節　九州地方 ―環境問題・環境保全に向き合う人々のくらし― 1　九州地方の生活の舞台 2　九州地方の人々の営み 3　多様な環境問題と環境保全の取り組み 4　工業化・都市化にともなう地域への影響 5　持続可能な社会をつくる

Table 8　九州地方の地理的内容の要約

見出し		地理的内容の要約
位置と気候		・九州地方は，わが国の南西に位置し，日本列島の南端にある。 ・北には，福岡，佐賀，長崎，大分の４県，南には，熊本，宮崎，鹿児島の３県，さらに南の南西諸島に沖縄県がある。 ・気候は概ね暖かい。 ・日本海側は夏より冬に雨が多めで，年間の雨の量はやや少なく，太平洋側は夏に雨が多く，冬にやや少ない。 ・南西諸島は亜熱帯に属し，１年中気温が高く，雨が多い。 地図 九州地方の地図（県名，県境，筑紫山地，九州山地が描かれる。県庁所在地が点で示される。） 注釈 亜熱帯の説明：温帯のなかで，熱帯に近い気候帯をいう。年間を通して気温が高い。他には熱帯，温帯，寒帯がある。
人口		・人口は，約 1476 万人で，日本の約 11.6%。 ・沖縄県は人口増加率と出生率が全国平均を大きく上回る。 ・商業地域や工業地域が集中している福岡県も人口が増えている。 ・他の件は人口がやや減り，高齢化が進んでいる。
産業	１．工業	・製鉄，機械，食品などの工業が発達し，福岡県北九州市を中心に交通の便利なところに工業地域がある。 ・長崎県では造船がさかん。 ・近年 IT 産業の発展で電子部品製造が工業の中心になりつつあり，福岡県，熊本県を中心に九州は「シリコンアイランド」とよばれる。 ・福岡県，大分県には大規模な自動車工場がある。
	２．農業	・各県とも米の生産が多く，野菜・果物・花の栽培や豚肉・肉牛の生産も増える。 ・熊本県は農業がさかんで，野菜や果物を数多く生産。 ・宮崎県はピーマンの生産が全国一で，畜産もさかん。 ・鹿児島県は，白色の火山灰などが積もってできたシラス台地が広がり，サツマイモの生産や豚の飼育が行われ，これらの生産は全国一。 ・沖縄県は，パイナップル・サトウキビの生産が全国一。
九州地方の各県	１．福岡県	・福岡の産業は商業，運輸業，サービス業が中心。 ・商業は，九州全域の６割を占める卸売業が発展し，商業施設の充実，高速道路の整備などもあり，商業範囲は九州北部全域まで拡大する規模。 ・福岡都市圏を中心に九州の経済・行政の中心が集まり，交通，情報の施設も集中し，「九州国立博物館」などの文化施設も多い。 ・工業は，半導体製造工場，ハイテク機器やソフトウェア産業の研究施設，自動車産業の組み立て工場などが進出。 写真 九州国立博物館

太平洋側，南西諸島の気候が紹介されている。また，亜熱帯という単語には注釈がつけられ，欄外で説明が付け加えられている。この見出しの中で九州地方の地図が取り上げられている。「人口」では，九州地方全体の人口，人口増加率，出生率が全国一の沖縄県，人口が増加している福岡県に対して，他の県ではやや人口が減っており，高齢化が進んでいることが紹介されている。「人口」という見出しではあるが，単に人口について紹介するのではなく，高齢化という現代社会の抱える問題についても言及されている。この高齢化という問題は，序章「(3) これからの社会」で示されるものである。「産業」では，工業と農業について紹介している。九州の工業を特徴付ける「シリコンアイランド」という単語が説明されたり，「各県とも米の生産が多く」など九州地方全体の産業の特色について紹介されたりしている。他の地方では，産業の下位に

水産業や林業などを取り上げる地方もある。

各県についての見出しは，主に地理的内容によって構成されるが，中には歴史的な内容を含む県もある。県内の主要な産業，全国一の生産量を誇る特産物，有名な観光地などが書かれている。その県の特色を示す施設，観光地などは写真で示される。例えば，福岡県の記述をみてみると，福岡県の記述は産業に関連することが多い。文化施設が多いことに関連して「九州国立博物館」が写真とともに紹介されている。九州国立博物館は「文化交流展示」を常設しており，アジアとの文化交流史に関わる展示を行っている。第４章で取り上げられる歴史的内容が「外国とのつながり」という視点から内容選択されているため，このような特徴的な展示を行っている九州国立博物館が福岡県の記述の中で選択されたと考えられる。

以上みてきた内容は４ページにまとまっている。さまざまな見出しで地方を多面的に学習し，最後にそれぞれの地方を構成する都道府県について学習する４ページで完結する構成となっている。地方によって見出しに書かれる文量や産業を構成する要素に差はあるが，このような構成は九州地方以外でも共通している。

『新しい社会　地理』では，５つの見開き，10ページ構成である。最初の２つの見開きでは，九州地方の特色を示す地理的事象を見出すような学習がなされ，その後の３つの見開きで中核とした事象を他の事象と関連付けて追及する見開きとなっている。そして，地方の最終ページには特色を生徒がまとめる学習が設定されている。これらの見開きを通して，九州地方の特色を学習する構成となっている。『新しい社会　地理』には，各県の地理的内容をまとめている章や節は存在しない。『新しい社会　地理』で述べられる事象はすべて地域的特色を説明するのに必要な地理的事象であると考えられる。

２．相違の指摘

以上の内容から，地理的内容の小単元構成に関して両者の相違として２点を指摘することができるだろう。

第一は，地方の学習方法の違いである。本教科書では，どの地方でも同じ要素である，統一された「位置と気候」「人口」などの見出しから地方を学習するのに対して，『新しい社会　地理』では，例えば「火山活動にともなう地形」「温暖で多雨の気候」というように地方ごとの特色を追究するための要素が見出しとなって地方を学習するという違いがある。つまり，本教科書ではどの地方も同じ要素で同じように学習するが，『新しい社会　地理』では，その地方の特色を見出す要素によって，地方ごとに異なる学習になっているのである。

第二は，各県の情報の取り扱いの違いである。九州地方の各県という項目は『新しい社会　地理』には存在しない。地域的特色を学習するためには，必要のないものであると判断されたためであると考えられる。それに対し，本教科書は各県の情報も扱い，そのような個別具体的な情報によってみえてくるように構成していると考えられる。このように，各県の情報まで踏まえ，個別具体的な情報から地方の学習をする本教科書と地域的特色を追究するために必要な情報によって地方を学習する『新しい社会　地理』という違いがある。

３．学習困難の想定とその手立て

ここまで，本教科書と通常学校用教科書の地理的内容と小単元構成を比較してきた。両者の間の相違から，本教科書の想定している学習困難をみることができる。『新しい社会　地理』では地域の学習に関して特色を追究する要素ごとに見出しを設けて学習内容をまとめているため，各地方で見出しが異なっている。また，学習される内容は特色を導き出すために必要な情報であり，生徒にはそれらから追及させている。本教科書ではこのような構成，学習方法とはなっていない。つまり，このような各地方で異なった見出しや地域的特色を見出すための内容によって学習困難がもたらされると捉えられていると考えられる。その克服のため，すべての地方で統一された見出しで整理された個別具体的な情報の学習によって，特色がみえてくるように構成されていると考えることができるだろう。

Ⅴ．地理的内容に焦点を当てた見開き構成の比較

１．通常学校用社会科教科書との比較

次に見開き構成レベルで通常学校用社会科教科書との比較を行いたい。注目するのは，本文の記述と取り上げられる資料である。

まず，両者の本文の記述を比較していく。Table 9は九州地方のうち，農業について書かれた箇所とそれに相当する『新しい社会　地理』の「２　九州地方の人々の営み」の「転換を求められた鉱工業」という見出しの記述を対比している。

本教科書は，現在の九州地方の産業について紹介している。そこで紹介されるのは，製鉄，機械，食品な

どが発達し，北九州市に工業地域があること，九州は「シリコンアイランド」と呼ばれること，福岡県や大分県には大規模な自動車工場があることである。また，シリコンアイランドについてはコラムを設け，説明を加えている。

『新しい社会　地理』は，本教科書とちがい，九州地方の産業の変遷を記載している。記述内容は20世紀はじめの八幡製鉄所の時代から始め，日本の産業発展を支える九州地方の姿を述べている。しかし，その後，エネルギー革命が進み，IC や自動車の工場が誘致され，機械工業への転換が図られるとある。つまり，現在の機械工業がどのような背景で発展したのかを説明している。

次に九州地方の説明で用いられる資料を比較してみよう。Table 10は九州地方についての資料を対比している。『新しい社会　地理』については，他にも多数の資料が取り上げられるが，ここでは対比しやすいものを示している。

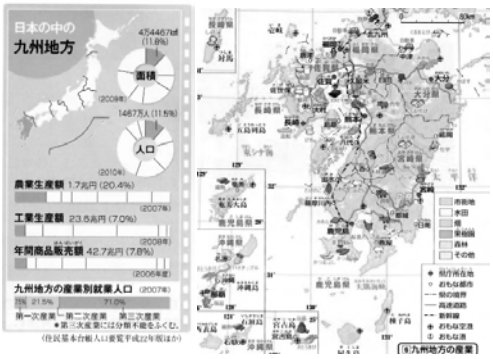
九州地方の見開きでいうと，本教科書において用いられる資料は九州地方の地図のみである。この地図には県名，県境，山地名（筑紫，九州），県庁所在地が示されている。九州島と南西諸島の２つの部分が組み合わされた地図となっている。沖縄県の位置は実際の位置に類似している。

『新しい社会　地理』で用いられるのは地図や写真，統計などである。ここでは，九州地方の第１見開きで取り上げられる「日本の中の九州地方」と第２見開きで取り上げられる「九州地方の産業」を示している。

Table 9　九州地方の工業に関する記述の比較

くらしに役立つ　社会	新しい社会　地理
産業　1. 工業	**2　九州地方の人々の営み　転換を求められた鉱工業**
製鉄，機械，食品などの工業が発達し，福岡県北九州市を中心として交通の便利なところに工業地域があります。長崎県では造船がさかんです。近年 IT 産業の発展で電子部品製造が工業の中心になりつつあり，福岡県や熊本県を中心に九州は「シリコンアイランド」とよばれています。また，福岡県や大分県には大規模な自動車工場があります。(155 字) ■シリコンアイランド マイコン，パソコンの使用が広がり，主な部品である IC（集積回路）などの生産が九州ではさかんです。(47 字)	九州は，日本の近代的な重工業発祥の地です。20 世紀のはじめ，福岡県の八幡村（現在は北九州市）に，日本発の本格的な製鉄所（官営八幡製鉄所）が建設されました。近くの筑豊炭田と，中国から輸入した鉄鉱石や石炭を利用して鉄鋼生産を行い，日本の産業発展を支えました。 しかし，1960 年代以降，エネルギー源が石炭から石油にかわるエネルギー革命が進むと，この地域での鉄鋼の生産量がおおはばに減り，九州の工業の地位も低下しました。また，栄えてきた炭鉱もすべて閉山されました。九州の各県は，その後，IC（集積回路）や自動車の工場を誘致し，機械工業への転換を図りました。(269 字)

Table 10　九州地方で取り上げられる資料

くらしに役立つ　社会	新しい社会　地理
	

「日本の中の九州地方」は，その名が示すように日本の中でどこに位置づき，面積，人口などが日本全体のどれくらいを占めるのかを表している。「九州地方の産業」は九州地方の地図を土地利用で色分けし，特産物のイラストを産地の位置に示した地図である。九州島が大きく扱われ，他に対馬や奄美大島，沖縄島などが別枠で示される。これらは大体位置する方角にかかれてはいるが，正確な位置関係にあるとはいえない。

２．相違の指摘

以上の内容から，見開き構成に関して両者の相違点を２点指摘できるだろう。

第一は，地域の現状を学習するのか，地域の特徴の変遷まで学習するのかという違いである。本教科書は，九州地方の現在の姿を述べている。それに対し，『新しい社会　地理』は九州地方がどのようにして現在の産業形態へと転換したのかを述べている。つまり，本教科書では現在の姿を説明しているが，『新しい社会地理』は特色の歴史的背景まで説明するという違いがある。このような違いは，先述したそれぞれの教科書の地理観，社会科観の影響であるだろう。

第二は，資料に含まれる情報量や資料の種類の違いである。本教科書の地図は，シンプルに地方を構成する県，県境，県庁所在地，主な地形を示している。陸地を色分けし，それによって標高や土地利用の分布を示したりしていない。それに対し，『新しい社会　地理』で取り上げられる資料は様々な種類の情報が多く載せられている。地図以外に棒グラフ，折れ線グラフなどの統計データや写真など資料の種類も多様である。つまり，本教科書の資料は『新しい社会　地理』に比べ，含まれる情報量が最低限に絞られている。

３．学習困難の想定とその手立て

ここまで，本教科書と通常学校用教科書の地理的内容と見開き構成を比較してきた。両者の間の相違から，本教科書の想定している学習困難をみることができる。

『新しい社会　地理』は，地域の特徴を変遷で捉えていた。これは，現在の事象だけではなく，例えば，かつて官営八幡製鉄所があり，鉱工業が栄えていたというような過去の事象を説明に加えることになる。つまり，記述の中に過去のものと現在のものとが入り混じってしまうことになる。このように時制が異なる内容が記述内に含まれることに学習困難があると捉えられていると考えられるだろう。それを克服するために，本教科書では九州地方の工業の特徴的な現在の事象だけ取り上げる。そして，このような特徴が現れるようになった理由，つまり歴史的背景を「工業」という見出しの中で扱うのではなく，「歴史」で扱い，変遷が見られるように構成されているといえる。つまり，「位置と気候」「人口」という地方の基礎的な情報，データを確認したあと，「歴史」で現在の九州地方を形づくる要因となるような出来事を確認し，現在の地方の諸側面として，農業，工業などの産業を学習する。その後，各県の内容へと細分化するという学習の流れとなることで時制の異なる事象が混在することを避けているといえるだろう。

また，『新しい社会　地理』に記載される資料は含まれる情報が多いものが複数ある。生徒には本文だけでなく，このような情報量が多い資料自体の読解が求められることとなる。このように，情報量が多い資料から情報を抜き出し，本文を捕捉することが学習困難となると捉えられているため，資料の情報量を最低限にとどめ，何を読み取ればいいのかを明確にしていると考えられるだろう。

Ⅵ．小括―地理的内容における学習困難と仮説との関連

本稿の２から４まで，地理的内容に焦点を当て，単元構成，小単元構成，見開き構成のレベルごとに相違点を指摘し，そこから導き出せる学習困難について考察してきた。ここまで考察してきたことをまとめ，本研究の研究仮説から検討を行いたい。以下の Table 11は，各レベルで指摘した違いとそこから導き出される学習困難，その克服のための手立てを整理したものである。

単元構成の比較から３つの学習困難とその克服の手立てを見出した。第一は，学問との連関を重視した内容の学習は困難であるため，生活との関連を重視した内容を学習する。第二は，学問的に有用とされる地図の学習は困難であるため，生活にとっての有用性の観点から地図を選択し学習する。第三は，学問的に要求される知識の学習は困難であるため，実際に社会生活で生徒たちが活用できる内容を学習する。これらを本研究の仮説から検討すると，１つ目は，生徒にとってイメージしやすい生活との連関を重視することで「容易性」を高めているといえるだろう。２つ目は，生徒が実際に使える，場合によっては使ったことがある地図を取り上げることで「行為随伴性」を高めていると

Table 11　各レベルの相違から導き出される学習困難と克服の手立て

構成	相違点	学習困難	克服の手立て
単元	内容が生活との連関重視か学問との連関重視か。	学問との連関を重視した内容の学習すること。	生活との連関を重視した内容を学習する。
	生活にとって有用性の高い地図を取り上げるか，情報を整理し，まとめるための地図を取り上げるか。	学問的に有用とされる地図を学習すること。	生活への有用性の観点から学習内容を選択する。
	住む，旅行する際に有用な地域の特色を学ぶか，地理学的に求められる地域の特色を学ぶか。	学問的に要求される知識について学習すること。	実際に社会生活の中で使用することができる内容を学習する。
小単元	統一された見出しで整理された内容で地域の学習をするか，各地方の特色を導くヒントとなる見出しによって整理された内容から地域を学習するか。	各地方で異なる見出しで内容をまとめること。	すべての地方で統一された見出しを設け内容をまとめる。
	個別具体的な情報から地域を学習するか，地域的特色を追及するために必要な情報から学習するか。	地域的特色を学習するために必要とされる情報から特色を追究していくこと。	個別具体的な情報を積み重ねることで地域全体の特色がみえてくるようにしている。
見開き	地域の現状を学習するのか，地域の特徴の変遷まで学習するのか。	時制が異なる内容が含んだ記述を理解すること。	過去の様子についての情報は地理的事象の一部としての歴史の中で取り上げる。
	シンプルにまとめられた資料か，様々な情報を詰め込んだ資料か。	情報量が多い資料から情報を抜き出し，本文を捕捉すること。	情報量を最低限にし，読み取るべき情報を明確化する。

いえるだろう。３つ目は，生徒が旅行したり生活したり際に使える知識を学習することで「行為随伴性」を高めているといえるだろう。

小単元構成の比較から２つの学習困難とその克服の手立てを見出した。第一は，地域ごとで異なる見出しで学習内容をまとめることを避け，全ての地方で統一した見出しで内容をまとめる。第二は，地域的特色を学習するために必要とされる情報から追究していくことは学習困難となるため，個別具体的な情報を積み上げていくことで地域全体の特色がみえてくるようにしている。これらを本研究の仮説から検討すると，１つ目は，形式を統一することでどの地方を学習するとしても情報を整理できるようにすることで「容易性」を高めているといえ，また，それぞれの見出しに書かれていることがどのような内容であるのかを生徒に見通しをもたせることで「決断性」を高めているともいえるだろう。２つ目は，記載する情報を個別具体的なものにすることで「容易性」を高めているといえるだろう。

見開き構成の比較か２つの学習困難とその克服の手立てを見出した。第一は，時制が異なる内容を含む記述を理解することは学習困難となりうるため，過去の様子についての情報は地理的事象の一部としての歴史の中で取り上げている。第二は，情報量の多い資料から情報を抜き出すことは困難であるとなりうるため，情報量を最低限にし，読み取るべき情報を明確化している。これらを本研究の仮説から検討すると，１つ目は，地理的事象の中で歴史的な変遷を触れないようにすることで「容易性」を高めているといえるだろう。２つ目は，何を読み取ればいいのか生徒たちに意識させることで「決断性」を高めているといえるだろう。

以上のように，本教科書と通常学校用社会科教科書の比較によって，本教科書が想定している学習困難を見出すことができた。先述したように通常学校用社会科教科書は「社会を理解する」ことを主目的にしているため，その内容は学問的な内容となる。それを「社会生活者」となるための知識・技能へとすることで「容易性」を高め，実際に使う姿が想像できる内容を取り上げることで「行為随伴性」を高めるという手立てが

見て取れた。そして，情報の読み取りがうまくいくようにするために特定の見えに決定するという「決断性」を高めていることも見て取れた。つまり，地理的内容についていえば，「容易性」「決断性」「行為随伴性」を高める手立てが用いられているといえる。

文　献

池野範男・宛　彪・岡田了祐・渡邉　巧・能見一修・横山千夏・若原崇史（2014）学習困難の研究（1）―特別支援教育の使命と教科教育の在り方―．広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要，12，17-24.

大南英明編集（2007）くらしに役立つ　社会．東洋館出版社

五味文彦・戸羽江二・戸ヶ崎典隆（2013）新しい社会地理．東京書籍.

五味文彦・戸羽江二・戸ヶ崎典隆（2013）新しい社会歴史．東京書籍.

五味文彦・戸羽江二・戸ヶ崎典隆（2013）新しい社会公民．東京書籍.

（2015.1.29受理）

An Analysis of the Social Studies Textbooks for Special Needs Schools “Useful for Everyday Living” (I) Contents of Geography: A Study of Learning Difficulties Part 2

Takashi WAKAHARA
Graduate School of Education, Hiroshima University
Biao WAN
Graduate School of Education, Hiroshima University
Chinatsu YOKOYAMA
Graduate School of Education, Hiroshima University
Takumi WATANABE
Graduate School of Education, Hiroshima University
Kazuyoshi NOMI
Graduate School of Education, Hiroshima University
Ryosuke OKADA
Graduate School of Education, Hiroshima University
Norio IKENO
Graduate School of Education, Hiroshima University

This research is the preliminary study to aim at educational new creation especially which are the mission of the special support education, “everyone can know and everyone can learn.” to restore an idea of the original education. In this research failure is in the educational state everyone has, not only the child who needs support especially. Our research team is thinking a possibility that all children fail and learning difficulty to have, supposes that it will be necessary to create the states that all children can learn without a trouble in a class and the activity of the school and push forward a study.

This paper is the second consideration. It at first confirms the purpose of a study and the hypothesis, compares the Social Studies Textbook for the Special School “Useful for Everyday living” and social studies textbooks for “usual” middle school focused on historical contents and considers the validity of the research hypothesis.

As a result of consideration, we found that the first raises “easiness” in the point that we clarified as a result of examination by making much of linkage with the life that it is easy to image for a student. The second raises “act accompanying characteristics” by taking up the map which we have used depending on the case that a student is really usable. The third is that we raise “act accompanying characteristics” by learning knowledge that a student travels and lives, and to be usable in case.

Key word: textbook for special needs schools, social studies, Geography, learning difficulty